

こだま新聞

第149号
平成20年3月

ジュース

3月13日に日本語教室八郎潟会場で平成19年度の日本語教室閉校式が開催されます。この日、教室に来ている生徒が一年間学んだ日本語でスピーチを行います。スピーチで話す内容は自筆で習ったばかりの日本語で原稿を書いてもらっています。その中から、「ジュース」というテーマで書かれた原稿を紹介します。

ー 本文開始 ー

日本に来て、どこかのレストランで子供の飲み物について「オレンジジュースでいいですか?」と聞かれました。ジュースは英語で「果汁」という意味ですから日本語もそつだと思いました。しかし、果汁ではなくFANTAみたいなオレンジ色の炭酸の飲料を出されました。



その後も、ジュースという名前でも色々な果汁でない飲み物が登場していました。

私は市販の「ジュース」が好きではありません。私は自然的なものが好きで要らない添加物を自分の体に入れたくはありません。子供は特に食べ物や飲み物から大人よりたくさん吸収しているので、市販の飲み物に多く含まれている保存料、着色料、炭酸など、正常な成長のために必要ではないのではないのでしょうか。必要じゃない物が「美味しければ食べてもいい」という意見があると思います。でも、有害な物が

美味しければ食べたいと思う人はそんなにいないかも知れませんが、添加物はどれくらい体に悪いのか、私は正確に調べたことがありません。

アレルギー、虫歯を始め色々な病気を添加物がもたらす可能性が低くないと思います。各メーカーがそれぞれ自分の利益のためにジュースを売ろうとしています。自然的な飲み物を作るのが手間はかかるし、値段も高くなるのであまり売れないでしょう。それでメーカーは「美味しくする」ために安い添加物を使って子供に馴染ませてお金をもらいます。子供が大きくなっても「なつかしい味の飲み物を飲みつづけています。のどがかわいているわけでもないとき、飲み物を飲んでしまします。ジュースのメーカーにはいいのですが、自分の健康のためににはどうですか。添加物には害が無くて不自然的でいいこともないでしょう。子供に飲ませたくない」と思いました。子供をただの消費者で育ててくれないです。私は自然を信じています。お茶とか自分でしぼったか自由などを飲ませた方がいいと思います。大きくなったら、本当に美味しいかどうか子

供が自分で決めますが、今のうちには自然的なものがいいと確信しています。

ー 本文終わり ー

四方山会

2月10日に開催された「八郎潟町文化芸術による創造のまちづくり」の総括でシンポジウムが開催されました。

私も御輿に乗せられてパネリストとして参加しましたが、意見を述べると言うよりは他のパネリストの意見を感心して聞かせていただきました。

特に、山形市で活躍しておられる四方山(ふもやま)会の河合克行会長に、「150人も会員が集まり、幽霊会員が一人もいない」と言う踊りの魅力は何ですか



中央が河合会長

リーダーの人的魅力ですか、それとも踊り手に素晴らしい演技をする人がいるからですか」と尋ねたら、「踊りそのものが持つ魅力がなければ続かないし、踊るほつも本気でないと続けられない」という言葉が返ってきました。

シンポジウムに続き開催された第2部では四方山会の「阿波踊り」と「花笠踊り」が披露されましたが、その真剣な踊りに観衆は魅了され、割れんばかりの拍手が起りました。本物の持つ魅力が八郎潟町民を感動させた瞬間でした。

今月の行事

3月

- 2日 歴史と文化を語る会
- 7日 メヒウス定例会
- 7日 中学校卒業式
- 10日 上町商店街役員会
- 12日 浦城の歴史 理事会
- 13日 中央地区保健大会
- 13日 日本語教室終了式
- 14日 幼稚園卒園式
- 20日 春分の日
- 21日 保険改正説明会
- 22日 秋盛会 総会
- 23日 八郎湖再生を考える集い
- 29日 八郎太郎伝説